

紅葉台



新聞

第181号

2025年
5月10日

発行人：関谷 孝

小出裕章さんと原子力発電 問題を学ぶ



毎月、クレヨンハウス（代表落合恵子・吉祥寺にある子どもの本屋）では、「朝の学習会」を開催しています。2011年3月11日東日本大震災での原発事故を契機に「原発を考える学習」を始めました。日本は世界で唯一の被爆国であり、昨年「原水爆被害者団体協議会」が核兵器の廃絶や被爆者の救済を訴える活動が評価されノーベル平和賞を受賞しました。しかし、私たちは本当の意味で原子力問題について知らないことが多いのではと思います。人に聞かれてもどんなことが問題なのか答えられないのではと。そこで、このような学習会が始まりました。今回のゲストは、小出裕章さん。京都大学原子炉実験所（現・京都大学複合原子力科学研究所）に入所。熊取六人衆の仲間達と出会い反原発を訴えるようになる。とても内容の深い話でしたので分かりやすく解説をしたいと思います。「幸せには、いろいろの条件があります。毎日、食事ができる。暑さ、寒さをしのげる家がある戦争に巻き込まれず、空から爆弾が降ってこない豊かに生きるためにはエネルギーも必要です。でも、エネルギーを使い過ぎれば環境が壊れてしまいます。」との前置きから（講演の内容から抜粋しました）

1. 地球が温暖化している。大気中の二酸化炭素が増えている。これら2つは事実である。それら2つの事実の間にどのような因果関係があるのか、きちんと検証されていない。それなのに、多くの人が二酸化炭素を減らすことが課題と思われてきた。地球大気温度の上昇は19世紀初めから始まり、大気中に二酸化炭素が増加する前から地球は温暖化の時期に入っていた。今は二酸化炭素が増える時期と重なっている。
2. 原子力推進派の主張は、地球温暖化の原因は二酸化炭素であり、脱炭素社会、カーボンニュートラル、GX（グリーン・トランスフォーメーション）原子力は二酸化炭素を出さない。だから、原子力を使おう！しかしよく考えると原子力は鉱山でウランを採掘する時にも、それを濃縮・加工する時にも二酸化炭素を放出している。原発自体も鋼鉄とコンクリートの塊で、それを建設する時に膨大な二酸化炭素を放出するし、運転する時にも放出する。そして、福島原発事故の始末のためにどれほどの二酸化炭素を放出することになるのか、気が遠くなる。さらに10万年、100万年の管理を求める核のごみの始末を考えれば、想像するのにもばかばかしい。
3. 目指すべきは低炭素社会ではなく低エネルギー社会。現在地球の生命環境が直面している脅威には大気汚染、海洋汚染、森林破壊、酸性雨、砂漠化、産業廃棄物、生活廃棄物、環境ホルモン、マイクロプラスチック、放射能汚染、さらには貧困、戦争など多数のものがある。それらはいずれも人間の際限のない欲望が生み出した大量生産、大量消費の結果で

あり、二酸化炭素などとも関係ない。たしかに地球温暖化も脅威の一つかもしれない。そして、その原因の一つに二酸化炭素があるかもしれない。ただそれだけのことなのに、原子力推進派は、二酸化炭素を出さないからと言って原子力を推進しようとする。しかし、真に求められていることは、低炭素社会を目指すことではなく、エネルギー浪費社会を廃止することである。

4. 戦争になった時、原発は敵国からの格好の標的となる。戦争になった時、敵国に原爆など落とさなくても、通常のミサイルで原発を破壊すれば、壊滅的な打撃を与えられる。そもそも福島原発事故の「原子力緊急事態宣言」は未だに解除できないまま続いている。
5. 国は今止まっている原発の「再稼働」「原発の寿命制限を撤廃」「次世代型の革新炉の開発・建設」と言っている。フクシマ事故から14年。いまだに「原子力緊急事態宣言」を解除することすらできず、被害者が苦難にあえいでいる。それなのに、日本というこの国は「原発は安定電源で、原発がなければ停電してしまう」とまた嘘をつき始めた。日本には水力発電所、火力発電所が厩大にあり、いついかなる時も電力供給に支障はなかった。フクシマ事故直後に火力発電所もたくさん止まってしまっていたごくひと時だけ、計画停電が行われたが、それ以降一度たりとも電力供給に支障が出たことはなかった。そして、フクシマ事故当時に比べ、発電設備は増えているし、電力需要は減っている。それどころか、日本には原発の余剰電力を使うため建ててしまった揚水式水力発電所が2747万kW（2022年7月時点、経産省、電力調査統計）と膨大にある。仮にピーク電力使用時に電力需要が逼迫するといのであれば、この陽水式水力発電所を活用すればよいだけである。日本ではいついかなる時でも電気に困ること等ない。
6. 「原子力」を平和利用と詐称しながら、核兵器保有能力をつけることを目的としてきた。福島原発事故が起き、日本の年間国家財政のすべてを使っても足りないほどの被害が生じた。しかし、誰一人として責任をとらないし、会社も潰れない。彼らは「原発を作る時に大儲け」事故が起きれば「除染と称して大儲け」その後は「復興と称して大儲け」経産省を中心に原子力を進めた。フクシマ事故で原発の安全神話は崩壊、六ヶ所再処理工場の稼働すら危うく「核燃料サイクル」などできない。それでも、再処理工場の稼働を断念すると言うと原子力政策全体が崩壊する。政策の継続性などと言い訳し、いつまでも続けようとする。

穏やかな日常生活こそ守るべきもの。との小出裕章さんの問いにどう答えますか。今回は、少し堅苦しい話かもしれませんが私たちにまずは、原発の事実を知ることから始めたいです。国は「原発再稼働」に舵を切っています。あれだけの事故がありながらも。未来にこの禍根を残さないためにも原発問題から目をそらすず一緒に考えていきましょう。（関谷）

